

水稻の生育情報

「コシヒカリの幼穂形成が進んでいます。間断かん水を行いましょう。」

概況（7月10日 水稻定点ほ場調査結果から）

平均気温は平年と比較して、6月上旬から高く推移しています。日照時間は6月下旬を除き、6月上旬から高い値で推移しています（図）。水稻の生育は、平年と比較して草丈はやや短い～長い、茎数は少ない～多い、葉色は薄い～平年並みと推移しています（表）。なお、現時点での幼穂長から、出穂期は4月下旬移植の場合平年並み、5月上中旬移植の場合遅いと予測されます。

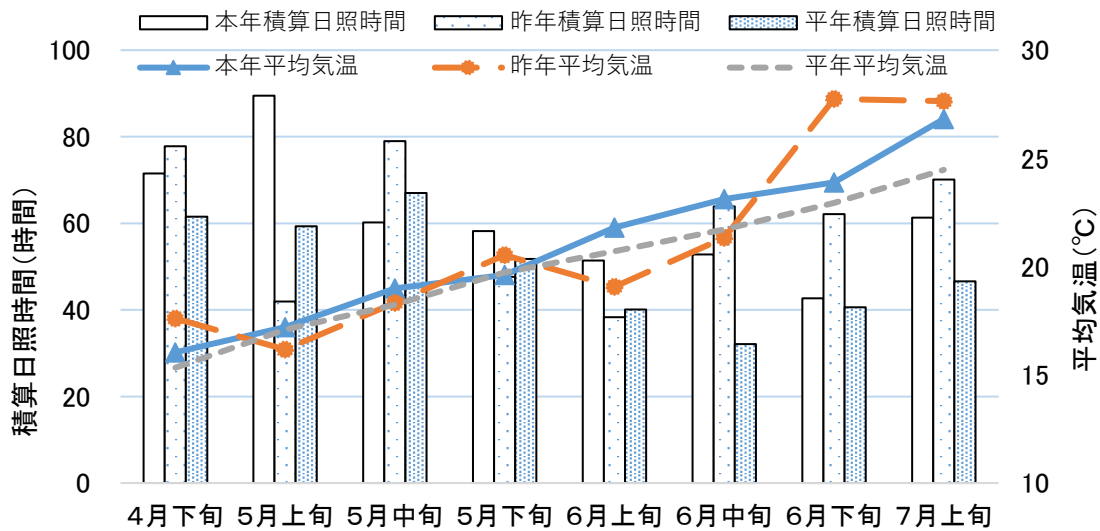


図 4月下旬から7月上旬別平均気温と日照時間（古河）（注）平年値は1991～2020年の平均

表 定点ほ場の生育調査結果（令和5年7月10日現在）

品種	調査地点	田植日	植付本数	栽植密度	草丈※1 cm	茎数※1		葉色※1 葉色板	幼穂長 mm	出穂期予測 ※2
			本/株	株/m ²		本/株	本/m ²			
コシヒカリ	坂東市	4/29	4.6	15.2	90.7 (89.3)	32	506 (549)	3.2 (4.0)	158.6	7/21 (7/20)
	境町	4/25	4.3	15.2	87.9 (91.1)	26	393 (546)	3.3 (3.8)	48.8	7/26 (7/24)
	五霞町	5/5	6.9	15.9	86.9 (79.7)	37	589 (460)	3.4 (3.6)	2.3	8/7 (7/29)
	古河市	5/14	4.7	17.5	81.7 (80.2)	28	489 (472)	3.5 (3.7)	3.3	8/7 (7/26)

※1 坂東市はほ場内で部分的に生育が悪い場所があり、調査は1反復。()内は過去5年間の平均値。

※2 出穂期は、気温が平年並みに推移したときの予測値。

今後の栽培管理

「3～4日間隔で入水と落水を繰り返す「間断かん水」を出穂直前まで続けましょう。
「極端に葉色が淡いほ場では、白未熟粒の発生低減のため追肥を行いましょう。」

○病害虫防除（斑点米カメムシ対策）

近年、作期の長期化に伴い、カメムシの被害が増加しています。昨年度被害が多発生したほ場やカメムシが多く見られるほ場では、薬剤による防除を行いましょう。防除適期は、穂ぞろい期（全体の90%の穂が出たとき）および出穂後10日後ごろの計2回です。粒剤を使う場合は、農薬の成分を発揮するまで少し時間がかかるため、防除適期の2～3日前に施用しましょう。

なお、開花中の防除は、受精を悪くして不稔へつながりまますので、早朝や夕方に行いましょう。